

大阪工業大学工学部 学生員 ○東村 佳美

大阪工業大学工学部 正会員 岩崎 義一

大阪工業大学工学部 正会員 南田 幸保

1. 目的と方法

高齢者にとって公園は、散歩やリハビリ、ゲートボール等の運動の場、交流や語らいの場、憩いの場などいろいろな利用がなされ、高齢者の生活の中で重要な存在となっている。今後、高齢者比率が増大し本格的な高齢社会を迎えようとしているなかで、高齢者が健康に生き生きと暮らしていくために、公園はその機能をさらに活かすことが重要であると考え。そこで、今後より多くの高齢者が公園を利用可能とするためには、バリアフリーを考慮した公園や公園までのアクセス空間の整備を進めることはもちろんのこと、現在公園を利用していない高齢者の実態や、高齢者の公園利用に関するニーズを把握し、高齢者の公園利用の促進を図るための対策を講じる必要がある。本研究では高齢者の公園を利用しようとする意識を阻害する要因の調査を行うとともに、利用意識や利用率の向上、利用満足度を充実させるための条件について、高齢者意識を通じて明らかにする。方法としては、大阪府下在住の高齢者にアンケート調査を行った。(2003年11月実施、サンプル数：182件)

2. 公園利用の実態と利用意識の阻害要因

①公園利用の実態と意識

現在の公園の利用実態について聞いてみたところ、「1. 利用している(59%)」「2. 利用していない(41%)」との回答を得た。また、「利用していない」と回答した高齢者のうち、「3. 利用意識はあるが利用していない(30%)」「4. 利用する意識が無い(70%)」との回答を得た。これにより、現在では高齢者の約5人に2人は何らかの理由によって公園を利用していないことが分かった。以下、1. を「利用層」、2. を「非利用層」とし、3. を「潜在的利用層」、4. を「潜在的非利用層」と呼ぶ。

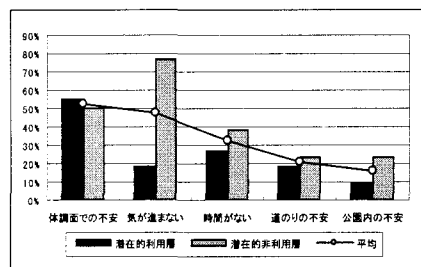


図2-1 公園利用意識の阻害要因

②公園利用意識の阻害要因

非利用層について、意識や行動がなぜ公園の利用につながらないかその要因(図2-1)について聞いてみると「体調の面で不安がある(潜在的利用層 55%・潜在的非利用層 50%)」という回答が共通して過半数を得ており、加齢による身体機能の低下や体力の衰えが関係していると言える。潜在的非利用層については、「気が進まない(77%)」という理由が大きく、その詳細(図2-2)は「公園を利用する目的がない」というところが過半数を占めている。公園を利用しないのは、体調面での不安や公園利用の動機が無いことが理由となっていることが分かる。

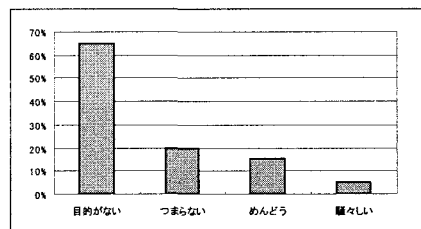


図2-2 気が進まない理由

3. 公園利用促進に関するニーズ

①公園までの移動支援に対するニーズ

加齢に伴う身体機能や体力の低下により、高齢者の外出しようとする意識は低くなる。そこで、体調面に不安を持っている高齢者が多いと見られる非利用層について、公園までの移動についての支援を必要としているかを聞いてみた。潜在的利用層については、55%の高齢者が移動支援があれば公園を利用すると回答しており、移動支援による公園利用の促進が大いに期待できる。しかし、潜在的非利用層は、これが12%と低い。これは、潜在的な非利用層については、体調面の不安よりも「気が進まない」という気持ちが大きく影響しており、移動支援による利用促進は難しいことを示唆している。

②公園利用に必要なサービス対してのニーズ

どういったサービスがあれば公園を利用するのかを聞いてみた(図3-1)。非利用層は、「送迎」や「移動機器の貸出」、「介助ボランティア」と、移動に関わる直接的な支援を必要としている。利用層は、「地域住民での誘い合い」があればもっと公園を利用するとの意見が多く見られた(91%)。非利用層もわずかではあるが「地域住民での誘い合い」が他の項目より高い数値が表れている。高齢者は地域や人とのつながりを求めている、それを確立する場所として公園に期待していることが考えられる。

4. 公園における「催し物」希望意識

高齢者は余暇時間を過ごす場所として公園を利用している。その余暇時間を充実したものにする、また、公園の利用を動機づける方法のひとつとして「催し物」の開催が考えられる。利用実態と意識別及び公園利用目的を持たない層について、公園での催し物を希望しているか、また、どのような内容が望まれるのかを聞いてみた(表4-1)。全体的に催し物の開催希望は高く、その内容も「地域住民組織との交流会」が共通して希望が高い。ここでも、高齢者が公園で地域住民との交流を望んでいる事が示されており、公園を利用して地域交流を図る事が有効だと言える。また、運動教室や展示会等を開催する際には、趣味を通じて交流を広げることや、活動の機会を多く設けることによって生きがいの創出が期待できると考える。そして、多くの高齢者の参加を促すために、分かりやすく見やすい掲示を行うなど広報での工夫や、様々な高齢者が一様に参加できるような企画の立案・実行が必要だと考える。

5. 公園の管理・運営に対する参加意識

公園を高齢者の活動の機会を与える場として位置付け、公園の管理や運営に参加してもらうことにより高齢者の生きがいづくりに活用することができると考える。そこで、公園に対する管理・運営に対する参加意識を聞いてみた(図4-1)。利用層は、「積極的に参加したい(10%)」「時々なら参加したい(52%)」と合わせて62%の高齢者が参加意識を持っている。非利用層でも44%の高齢者が時々なら参加したいという意識を持っており、全体から見ても、過半数を超える高齢者が参加意識を持っている。高齢者の経験や知恵を生かし、公園でのカルチャー事業実施と、高齢者の社会奉仕を組み合わせるなどの参加プログラムを組み込むことによって、参加意識の増強を図ることが出来ると考える。また、「参加できない」高齢者の理由のなかで体調面での不安が挙げられていることから、公園を単位とした地区での地域組織と高齢者を支援するボランティアとの連携など、誰でも気軽に参加できる体制づくりが重要である。

6. まとめ

高齢者が公園を利用しようとする行動や意識を阻害する要因は、加齢に伴う身体機能の低下が大きく関係している。しかし、公園までの移動について移動支援があれば公園を利用したいと思う高齢者は少なくなく、体調面での不安による阻害要因は移動支援によって解消が期待できる。身体機能の低下以外の要因として、公園を利用する目的・動機が無いということが挙げられる。公園利用の動機となるような「催し物」や、「公園の管理・運営」については、公園を利用している・していないに関わらず関心は高く、様々な高齢者のニーズに合わせた支援やプログラムを行うことにより、公園利用促進や公園利用満足の充実を図る事が期待できる。また、高齢者は地域との結びつきを求める声が高かった。公園は誰もが身近で気軽に利用できる場所であることから、公園を地域と高齢者とを結びつける核に置くことで、高齢者の公園利用が促進されるのはもちろんのこと、地域に活性と結びつきが生まれ、高齢者だけでなく地域全体が暮らしやすい「まち」になるだろう。

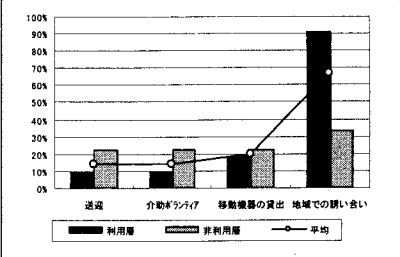


図3-1 公園利用に必要なサービス対してのニーズ

表4-1 公園における催し物希望

利用実態と意識	利用層	希望率	希望内容		
			第1	第2	第3
			地域	運動	展示
利用実態と意識	潜在的利用層	82%	地域	文化	展示
	潜在的非利用層	69%	地域	展示	運動
	公園利用目的を持たない層	73%	展示	地域	運動

運動：体力づくりなどの運動教室やラジオ体操
展示：盆栽等、自作品の展示会や品評会
地域：老人会や子供会など地域住民組織との交流会
文化：歌合・野点などの文化的行事

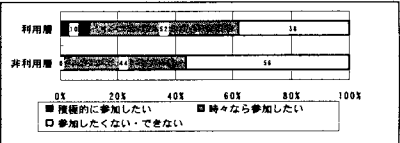


図4-1 公園の管理・運営に対する参加意識